

海の温暖化に伴う出現魚種の変化と その活用に関する研究

(予算区分 県費 研究期間 2025～2026 年度)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 岡田裕史・市川喬雅
開発加工科 隈部千鶴・後藤紗弥子
普及総括班 中村健太郎

【研究の背景とねらい】

- ・静岡県を含む四国・東海域の太平洋沖合の海水温は、過去 100 年間に約 1.4℃上昇しており、本県で漁獲される水産物に対して様々な影響を及ぼしています。
- ・本県の過去 10 年間の漁獲量はしらすで 25%、さば類は 20%に減少するなど、沿岸・沖合漁業を支えてきた主要な資源の減少が著しく、漁業者や水産加工業者の経営は厳しい状況にあります。一方、これまで本県沿岸であまり見られなかった南の温暖海域に生息する魚種（以下、南方系魚種）の漁獲量が増加していますが、これらの魚種の中には食べ方や利用方法が知られていないなどの理由で、市場価値が低いものがあります。
- ・本研究では、近年漁獲が増加しているものの、市場価値が低い南方系魚種を市場調査やデータ整理により探索します。また、生態等が不明で市場価値が低い南方系魚種 3 種（カタボシイワシ、台湾アイノコイワシ、テンジクタチ）について、漁獲実態や生物特性を把握するとともに、味や栄養成分の評価を行うことで、新たな利活用方法を開発します。



南方系魚種:カタボシイワシ(左)、台湾アイノコイワシ(中)、
テンジクタチ(右)

市場に水揚げされた南方系魚種

【期待される効果】

南方系魚種の市場価格が上昇し、漁業者所得の向上が期待できます。また、利活用方法が確立されることにより、加工原料等の不足の解消に寄与することが期待されます。

【年次計画】

細目課題	2025 年度	2026 年度	研究内容
海の温暖化に伴う未利用・低利用魚の探索	○	○	・ 県内市場の市場伝票、漁獲統計等の整理 ・ 市場調査による統計に現れない低利用種の探索
未利用・低利用魚の生物特性、品質特性の把握	○	○	・ 漁獲実態、生物特性の把握 ・ 味・身質成分評価による食品としての特性把握 ・ 既存加工品の代替原料としての利用可能性調査 ・ 漁業用餌料としての適性評価

(作成 2025 年 6 月)